今年度の具体的な取組み

探究科１年「探究」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和３年度　第　１　学年　総合的な探究の時間　実施報告書

福井県立　鯖江　高等学校　全日制　課程　探究　科

名　　称	探究	単　位　数	1

月日	学　習　活　動	授業時数（分）	学習形態
4/16	探究学習オリエンテーション	50	一斉受講
4/30	エッグチャレンジ	50	グループ活動
5/7	問いの立て方	50	一斉受講
6/18	ブレインストーミングと KJ 法	50	グループ活動
6/25	グループでの問いの設定	50	グループ活動
7/12	先行研究を調べよう	50	グループ活動
7/13	進路学習２ｈ	100	一斉活動
7/15	鯖江市の企業との交流会	150	グループ活動
9/15	進路講演会	100	一斉受講
9/17	情報収集をしよう①	50	グループ活動
9/24	情報収集をしよう②	50	グループ活動
10/1	情報収集をしよう③	50	グループ活動
10/8	研究計画を立てよう①	50	グループ活動
10/15	研究計画を立てよう②	50	グループ活動
10/22	大学訪問	150	グループ活動
11/5	課題研究①	50	グループ活動
11/12	課題研究②	50	グループ活動
11/19	課題研究③	50	グループ活動
11/26	課題研究④	50	グループ活動
12/3	課題研究⑤	50	グループ活動
12/17	SDGｓカードゲーム	150	グループ活動
1/14	課題研究⑥	50	グループ活動
1/21	課題研究⑦	50	グループ活動
2/4	課題研究⑧	50	グループ活動
2/18	発表資料づくり①	50	グループ活動
2/25	発表資料づくり②	50	グループ活動
3/17	探究学習発表会	50	グループ活動
		計 1750 分	

成果と課題について（主な研究テーマについて記入する）	
研究テーマ	内容
探究学習の基礎スキルの習得	はじめに総合的な探究の時間のオリエンテーションやエッグドロップの実験を実施し，探究活動を行う仲間づくりを行った。 探究学習に必要な主な基礎スキルとして，問いの立て方対話やナンバリング・ラベリングを意識した話し方，ブレインストーミングでアイディアの出し方，ＫＪ法やウェビングマップを活用したアイディアのまとめ方を学習した。 さらに、先行研究の調べ方、インターネットや書籍を活用した情報収集方法などについて学習し、今後も継続する探究学習の基礎スキルを習得させていった。 ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れたことで，生徒たちは仲間と楽しく交流しながら基礎スキルを習得することができた。
課題研究の「テーマ」と「問い」の決定	前年度からの課題として、「１年次から問いの設定，調査，分析，プレゼンテーションといった一連の流れを体験させた方がよい」ということがあがり、１年次から課題研究を実施した。生徒はグループや個人で意欲的に課題研究に取り組んでいたが、時間的・金銭的な制約などもあり、完成度には差が大きくなってしまった面もある。 次年度は、課題研究に取り組む前に、実験方法や社会調査の方法などについての学習を取り入れ、課題研究の完成度を高めることで、２年次以降に本格化する課題研究につなげていくことも検討していく。

探究科２年「探究」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和３年度　第　２　学年　総合的な探究の時間　実施報告書

福井県立　鯖江　高等学校　全日制　課程　探究　科

名　　称	探究	単　位　数	2

月日	学　習　活　動	授業時数（分）	学習形態
4/15	課題研究に関するオリエンテーション	100	個人・グループ活動
5/6	実験方法と調査方法に関する特別講義	100	一斉受講
5/20	情報の収集①	100	個人・グループ活動
5/27	鯖江市ＳＤＧｓの調べ学習①	50	グループ活動
6/3	情報の収集②	100	個人・グループ活動
6/10	鯖江市ＳＤＧｓの調べ学習②	50	グループ活動
6/11	進路講演会	50	一斉受講
6/17	情報の収集③	50	個人・グループ活動
6/24	情報の収集④	100	個人・グループ活動
7/8	情報の整理・分析①	50	個人・グループ活動
7/12	小論文１ｈ，情報の整理・分析②	150	個人・グループ活動
7/15	小論文１ｈ，情報の整理・分析③	150	個人・グループ活動
7/16	情報モラル等講演会	50	一斉受講
7/31	高校生課題研究ワークショップ	200	個人・グループ活動
9/9	鯖江市ＳＤＧｓのインタビューの準備①	50	グループ活動
9/15	鯖江市ＳＤＧｓのインタビューの準備②	50	グループ活動
9/16	鯖江市ＳＤＧｓのインタビュー	100	グループ活動
9/30	課題研究中間発表会の準備①	100	個人・グループ活動
10/7	課題研究中間発表会の準備②	100	個人・グループ活動
10/18	鯖江市ＳＤＧｓの英語の発表原稿作成①	300	グループ活動
10/21	鯖江市ＳＤＧｓの英語の発表原稿作成②	50	グループ活動
10/28	課題研究中間発表会の準備③	50	個人・グループ活動
11/2	課題研究中間発表会	100	個人・グループ活動
11/11	鯖江市ＳＤＧｓの英語での発表練習①	100	グループ活動
11/18	鯖江市ＳＤＧｓの英語での発表練習②	100	グループ活動
12/1	シンガポールの学生とのオンライン交流	250	グループ活動
12/9	課題研究とオンライン交流の振り返り	100	個人・グループ活動
1/13	課題研究最終発表会の準備①	100	個人・グループ活動
1/20	課題研究最終発表会の準備②	100	個人・グループ活動
2/3	課題研究最終発表会の準備③	100	個人・グループ活動
2/10	課題研究最終発表会の準備④	100	個人・グループ活動
2/19	課題研究最終発表会	350	個人・グループ活動
		計 3500 分	

成果と課題について（主な研究テーマについて記入する）	
研究テーマ	内容
課題研究	生徒が自分の興味や関心に沿って設定した「問い」について，１年間かけて課題研究を個人またはグループで実施した。 テーマによって国語（人文・教育），社会（地域・経済），数学（医療），理科（自然科学），英語（国際・環境）に分類し，各教科担任の指導のもと，公共機関や民間企業とも連携しながら情報の収集や整理，分析を行った。 高校生課題研究ワークショップでは他校の生徒と交流し，日頃の課題研究で感じていることや悩みを共有しながら，課題研究の意義を再確認した。 高大接続改革の一環として，大学の教員から実験方法や調査方法，発表方法について学んだほか，中間発表会ではグループ毎に助言をいただいて研究の振り返りを行った。最終発表会では他校の生徒を交えて１年間の成果発表を行い，大学の教員の助言のもと，高校生同士の意見交換を行った。 課題研究を通して，生徒たちは答えが無い（複数ある）ものに挑戦することの難しさと楽しさを実感できたようである。その過程で，社会的・学術的な課題を発見する力や，課題を解決するための計画立案や実行力，研究の成果を相手に論理的に説明する思考力や表現力が身に付いたように感じる。
鯖江市ＳＤＧｓ（シンガポールの学生とのオンライン交流）	鯖江市のＳＤＧｓの達成に向けた取り組みについて，７つのテーマに分かれてグループで調査した。タブレットの活用をはじめ，関連機関へのインタビューを実施した。 調査した内容を英語に翻訳し，シンガポールの学生に英語でプレゼンテーションを行った。国際目標であるＳＤＧｓについて意見交換を行うことで，鯖江市の魅力を再確認するとともに，多様な文化や考え方に触れ，国際コミュニケーション力を高めた。

普通科１年「総合的な探究の時間」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和３年度　第　１　学年　総合的な探究の時間　実施報告書

福井県立　鯖江　高等学校　全日制　課程　普通　科

名　　称	総合的な探究の時間	単　位　数	1

月日	学　習　活　動	授業時数（分）	学習形態
4/16	オリエンテーション	50	一斉受講
4/30	コミュニケーションと対話について	50	グループ活動
5/7	ブレインストーミングとＫＪ法	50	グループ活動
6/11	進路適性検査	50	一斉活動
6/18	ウェビングマップ	50	グループ活動
6/25	進路学習（２０年後の自分を考える）	50	個人活動
7/12	進路学習（働くことについて考える）	50	個人活動
7/13	進路学習２ｈ	100	一斉活動
7/15	新聞記者による講義（新聞記事づくり講座）	100	一斉受講
7/16	情報モラル講演会	50	一斉受講
9/15	進路講演会	100	一斉受講
9/17	新聞記事づくり（①テーマ決め）	50	グループ活動
9/24	インタビューについて	50	グループ活動
10/1	新聞記事づくり（②インタビューの質問を考える）	50	グループ活動
10/8	新聞記事づくり（③調べ作業）	50	グループ活動
10/15	新聞記事づくり（④質問の練り直し）	50	グループ活動
10/22	大学訪問	150	一斉活動
11/5	新聞記事づくり（⑤情報収集）	50	グループ活動
11/10	防犯教室	50	一斉受講
11/12	新聞記事づくり（⑤情報収集）	50	グループ活動
11/19	新聞記事づくり（⑥構成について）	50	グループ活動
11/26	新聞記事づくり（⑦構成の検討）	50	グループ活動
12/3	新聞記事づくり（⑦構成の検討）	50	グループ活動
1/14	新聞記事づくり（⑧記事の作成）	50	グループ活動
1/21	新聞記事づくり（⑧記事の作成）	50	グループ活動
2/4	新聞記事づくり（⑧記事の作成）	50	グループ活動
2/18	新聞記事づくり（⑨発表準備とグループ発表）	50	グループ活動
2/25	新聞記事づくり（⑩クラス発表）	50	グループ活動
3/17	新聞記事づくり（⑪振り返り）	100	一斉活動
		計 1750 分	

成果と課題について（主な研究テーマについて記入する）	
研究テーマ	内容
探究学習の基礎スキルの習得	はじめにオリエンテーションを実施し，エンカウンターを通して学び合う雰囲気づくりを行った。 探究的な学習に必要となる基礎スキルとして，対話やナンバリング・ラベリングを意識した話し方，ブレインストーミングによるアイディアの出し方，ＫＪ法やウェビングマップを活用したアイディアのまとめ方を学習した。 ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れたことで，生徒たちは仲間と楽しく交流しながら基礎スキルを習得することができた。
新聞記事づくり	自分の興味関心のある職業について，個人で新聞記事を作成した。はじめに、実際に新聞記事を書いている福井新聞社の記者から，読み手に伝えるための文章の書き方や，インタビューの方法などを学んだ。テーマの設定、インタビュー質問の作成、情報収集（インタビューなど）を経て新聞記事を完成させ，クラス内のグループで読み合いを実施し，相互評価および振り返りを実施した。 新聞記事づくりを通して，課題発見能力，進路意識の向上が図れたほか，文章表現能力や情報収集能力の向上が見られた。対面でのインタビューが困難な場合は，オンラインやメールを活用してインタビューを実施したが，インタビュー相手が見つからなかった生徒は，調べ学習で終わってしまうものもあった。

普通科２年「総合的な探究の時間」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和３年度　第　２　学年　総合的な探究の時間　実施報告書

福井県立　鯖江　高等学校　全日制　課程　普通　科

名　　称	総合的な探究の時間	単　位　数	1

月日	学　習　活　動	授業時数（分）	学習形態
4/16	オリエンテーション	50	一斉受講
4/30	ゲスト講師による講義（鯖江市の SDG s の取り組みを知る）	50	一斉受講
5/7	調べ学習・資料作成	50	グループ活動
6/11	進路講演会	100	一斉受講
6/18	SDG s 講演会	50	一斉受講
6/25	探究課題の設定/動画作成計画・調べ学習	50	グループ活動
7/12	調べ学習	100	グループ活動
7/15	調べ学習	100	グループ活動
9/17	課題研究（課題の絞り込み）/動画作成準備	50	グループ活動
9/24	インタビュー準備	50	グループ活動
10/1	中間発表用資料作成	50	グループ活動
10/8	中間発表用資料作成	50	グループ活動
10/15	中間発表用資料作成・インタビュー準備	50	グループ活動
10/18	SDG s 探究プロジェクト（インタビュー・動画撮影）	150	グループ活動
10/22	大学模擬授業	150	一斉活動
11/5	中間発表会準備・資料作成	50	グループ活動
11/12	中間発表会リハーサル（クラス内発表練習）	50	グループ活動
11/19	中間発表会	100	グループ活動
11/26	中間発表会振り返り・実践活動報告会に向けての準備	50	グループ活動
12/3	資料作成・動画作成	50	グループ活動
1/14	実践活動報告会用スライド作成	50	グループ活動
1/21	実践活動報告会用スライド・ポスター等作成/動画作成	50	グループ活動
2/4	実践活動報告会用スライド・ポスター等作成/動画作成	50	グループ活動
2/18	実践活動報告会用スライド・ポスター等作成/動画作成	50	グループ活動
2/25	実践活動報告会リハーサル/小学生との交流活動	50	グループ活動
3/17	実践活動報告会・振り返り	100	グループ活動
		計 1750 分	

成果と課題について（主な研究テーマについて記入する）	
研究テーマ	内容
・鯖江市のＳＤＧｓに関する探究学習 ・鯖江市の SDGｓ活動の PR 動画作成（１チーム）	鯖江市が主に取り組んでいるＳＤＧｓの６つのテーマに沿って、興味関心のある生徒同士でグループを組み、探究学習を実施した。 各テーマ固有の現状・課題について調べ、それを解決するための手段について、鯖江市役所や地域企業へのインタビューなどを通して、問題を自分事としてとらえ、課題について探究していった。１１月の中間発表会では、鯖江市役所から助言者を招聘し、評価、ご助言をいただいた。 希望者による動画作成チームは、丹南ケーブルテレビの協力を得て、鯖江市の SDGｓ推進活動をアピールする PR 動画の作成を行った。生徒全体での撮影なども取り入れ、高校生としての視点で動画作成に取り組んだ。「地域との協働による高等学校教育改革事業」全国サミットにも参加した。 多数のグループが一斉に活動するため、グループ格差が極力生じないように、支援していく必要がある。コロナ禍で活動が制限され、発表会の日程や実施方式が変更するなど臨機応変な対応が求められた。オンラインでの発表環境などを整えていくことが今後も必要である。
・鯖江市 SDGｓ啓発ポスター作り/PR 動画作成と実践活動報告会	中間発表を踏まえ、各テーマに沿った鯖江市のＳＤＧｓの取り組みに関する啓発ポスターや、啓発グッズ、動画作成などを作成した。 実践活動報告会では、引き続き鯖江市役所等からゲスト講師を招聘し、評価、ご高評をいただいた。作成したポスターについては、鯖江市と連携し、鯖江市内の各施設に展示し、広く市民に公表する予定となっている。また、PR 動画については、地元 CATV で放映される予定である。

普通科「総合的な探究の時間」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和３年度　第　３　学年　総合的な探究の時間　実施報告書

福井県立　鯖江　高等学校　全日制　課程　普通　学科

名　　称	総合的な探究の時間	単位数	1	
月日	学　習　活　動		授業時数（分）	学習形態
4/16	全体ガイダンス		50	一斉受講
4/23	テーマの検討と設定		50	個人活動
4/30	調べ学習		50	個人活動
5/7	調べ学習		50	個人活動
5/28	学校祭計画		50	グループ活動
6/11	推薦・就職希望説明会，進路学習		50	一斉受講
6/18	調べ学習・資料作成		50	個人活動
6/25	調べ学習・資料作成		50	個人活動
7/13	資料作成・発表リハーサル		100	個人活動
7/14	クラス内発表（プレゼンテーション）		150	一斉活動
7/15	プレゼンテーション振り返り・進路学習		100	一斉活動
7/16	情報モラル等講演会		50	一斉受講
7/20	学校祭計画		50	グループ活動
8/28	学校祭計画		50	グループ活動
9/10	大学入学共通テスト出願説明会・進路学習		50	一斉受講
9/15	進路学習		50	一斉活動
9/17	１学期振り返り・２学期計画		50	個人活動
9/24	コース別進路学習		50	個人活動
10/1	コース別進路学習		50	個人活動
10/8	コース別進路学習		50	個人活動
10/15	コース別進路学習		50	個人活動
10/22	消費者講演会		50	一斉受講
10/22	進路学習		50	一斉活動
10/5	コース別進路学習		50	個人活動
10/10	防犯教室		50	一斉受講
10/12	コース別進路学習		50	個人活動
10/19	コース別進路学習		50	個人活動
10/26	コース別進路学習		50	個人活動
12/3	コース別進路学習		50	個人活動
12/10	ビジネススキルアップセミナー		50	一斉受講
1/14	振り返り		50	一斉活動
			計 1750 分	

成果と課題について（主な研究テーマについて記入する）	
研究テーマ	内容
課題探究	３年次では，プレゼンテーション能力を高めることを主な目的とした活動を行った。１年次から総合的な探究の時間で，様々な活動をおこない，その都度発表の機会を設けてきた。今年度は，これまでの探究活動の経験をもとに，各個人の希望進路にあわせて，各自でテーマを設定し，効果的なプレゼンテーションが行えるよう，発表方法も自由にできるようにした。 推薦入試の志望理由や面接などで直接かかわる内容のものや，純粋に興味をもって探究していく生徒など，内容が多岐にわたり，それをクラス内で発表することで，情報が共有され，他の生徒たちにも影響を与えることができた。 一方，単なる調べ学習で終了してしまうものや，他の人に伝えるためのプレゼンテーションになっていないものもあり，プレゼンテーションの重要性を認識できていない生徒も多く，社会人として必要な能力であることを，もっと認識させる必要がある。
コース別進路学習	２学期以降は各自の希望進路に合わせて，コース（クラス）別に進路学習を行った。 １学期の課題探究の活動を踏まえて，総合型選抜入試のプレゼンテーションに対応させたり，推薦入試のための面接や志望理由の内容を検討したりして，各自の将来に向けたそれぞれの取り組みを行った。 本校の生徒は進学・就職など進路希望が多岐にわたるため，それぞれの進路希望に合わせた対応が非常に困難である。今後の活動方法や教員の対応方法などを検討していきたい。

地域の方々にご協力いただいた活動

１年探究科「探究」

４月３０日（金）　「課題研究とは」特別講義

講師　仁愛大学　西出 和彦　教授

内容　連携協定を締結している仁愛大学の西出教授に，探究研究とはどのようなものかを詳しく解説していただき，その後「エッグドロップ」を題材にした簡単な実践活動を行い，探究学習の一連の流れを体験した。詳しくは地域協働ニュース第２号を参照。

５月７日（金）　「問いの立て方」特別講義

講師　仁愛大学　西出 和彦　教授

内容　前回に引き続き，仁愛大学の西出教授に，「問いの立て方」について詳しく解説していただいた。

７月１５日（木）　鯖江市の企業との交流会

交流企業　アイテック株式会社
株式会社 鯖江村田製作所
タイヨー電子株式会社
福井めがね工業株式会社
ヨシダ工業株式会社

内容　昨年度に引き続き，鯖江商工会議所のご協力により実施した。今年度は特に世界で活躍する企業や，最先端の技術を持つ企業に参加していただいた。詳しくは地域協働ニュース第７号を参照。

１２月１７日（金）　２０３０ＳＤＧｓカードゲーム体験

講師　エコネットさばえ　楳原 秀典　氏（2030SDGs ゲーの公認ファシリテーター）

内容　昨年度に引き続き「２０３０ＳＤＧｓカードゲーム」の体験を通して，世界中で行われている持続可能な世界の実現の取組みとその影響について考える学習をした。詳しくは地域協働ニュース第１８号を参照。

その他　鯖江市，企業などへのインタビュー，企業訪問などを随時実施。

２年探究科「探究」

５月６日（木）　実験方法と調査方法に関する特別講義

講師　仁愛大学　西出 和彦　教授
同　織田 暁子　准教授

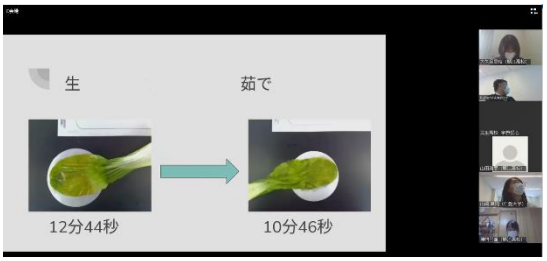
内容　仁愛大学より西出教授と織田助教授をお迎えして，西出教授より「実験方法」について，織田准教授より「調査方法」について詳しく解説していただいた。詳しくは地域協働ニュース第３号を参照。

７月３１日（土）　高校生課題研究ワークショップ
講師　仁愛大学　西出 和彦　教授
　　同　　織田 暁子　准教授
　　同　　高野 秀晴　准教授
会場　仁愛大学
内容　仁愛大学主催の課題研究ワークショップに鯖江高校，武生高校，武生東高校の３校が参加し，合同で課題研究についての理解を深める活動を行った。詳しくは地域協働ニュース第９号を参照。

９月１６日（木）　鯖江市ＳＤＧｓに関するインタビュー活動
対象　鯖江市職員 他
内容　各自が研究している鯖江市のＳＤＧｓに関する内容について，一斉に鯖江市の職員にインタビュー活動を実施した。実施方法は，鯖江高校で対面で実施したものや，オンラインで実施したものもある。

１１月２日（火）　課題研究中間発表会
助言者　仁愛大学　西出 和彦　教授
　　同　　織田 暁子　准教授
　　同　　高野 秀晴　准教授
参観者　地域協働運営指導委員　他
内容　これまでの探究活動の中間発表会を実施し，探究活動のご指導をいただいてきた仁愛大学の先生方に助言をいただいた。詳しくは地域協働ニュース第１２号を参照。

２月１９日（土）　課題研究合同発表会
主　催　仁愛大学
参加校　鯖江高校，武生高校，武生東高校
内　容　仁愛大学主催の課題研究合同発表会に鯖江高校，武生高校，武生東高校の３校が参加し，これまでの成果を発表し，助言をいただいた。



その他　鯖江市，企業などへのインタビュー，企業訪問などを随時実施。

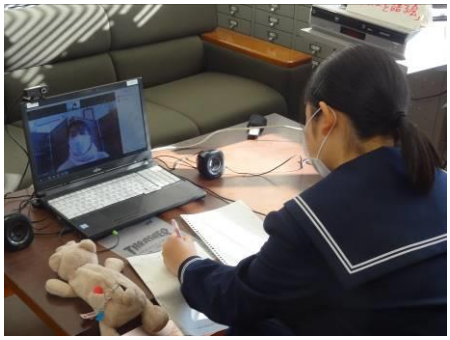
１年普通科「総合的な探究の時間」

７月１５日（木）　福井新聞社の記者による特別授業
講師　福井新聞社　薮内 弘昌　氏
　　同　　徳島 康彦　氏
内容　今年度も引き続き福井新聞社の記者による「新聞記事の書き方」について特別授業をしていただいた。

冬休み～１月　新聞記事づくりのためのインタビュー

対象　鯖江市役所，鯖江商工会議所　他

内容　インタビューの実施に当たり，個人で直接アポが取れない生徒に対して，鯖江市役所および鯖江商工会議所にご協力により，計２１の関係団体を仲介していただき，インタビューを実施することができた。実施方法は，直接訪問する場合やオンライン，メールによるものなど，コロナ禍でも実施可能な方法で実施した。



２年普通科「総合的な探究の時間」

４月１６日（金）　「鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト」全体オリエンテーション

講師　さばえＳＤＧｓ推進センター　仲倉 由紀　氏

丹南ケーブルテレビ株式会社　林　　良宗　氏

内容　２年生が取り組む「鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト」について，鯖江市の現状の説明と，動画作成の概要について，両氏から説明をしていただいた。詳しくは地域協働ニュース第１号を参照。

４月３０日（金）　鯖江市のＳＤＧｓの取組みの現状を知る

講師　さばえＳＤＧｓ推進センター　関本 光浩　氏

同　　仲倉 由紀　氏

内容　前回に引き続き，「鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト」の活動をしていくにあたって，鯖江市のＳＤＧｓの取組みの現状を詳しく説明していただいた。

６月１８日（金）　ＳＤＧｓ講演会

講師　環境活動家　　露木 志奈　氏

内容　地域協働事業の本校の運営指導委員である田中謙次氏のご紹介により，環境活動家の露木志奈氏をお招きし，ＳＤＧｓに関する特別講演を実施した。詳しくは地域協働ニュース第５号を参照。

１０月１８日（月）　「ＳＤＧｓ探究プロジェクト」（インタビュー，動画撮影）

対象　鯖江市他，関係企業・団体・個人

内容　「ＳＤＧｓ探究プロジェクト」の実践活動として，関係者と直接交流し，これまでの研究について，インタビューをして内容を深めていった。実施方法は，鯖江高校に直接来ていただいて，教室や体育館で交流したり，相手先に直接訪問して，見学をしながらインタビューするグループもあった。またコロナ下であったが，オンラインで実施することができたグループもあり，計２８の団体と交流することができた。また，午後からは丹南ケーブルテレビのご協力により，動画作成グループの動画撮影も行った。詳しくは地域協働ニュース第１１号を参照。

１１月１９日（金）　「鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト」中間発表会

助言者　鯖江市総務部市民活躍課　　高崎 則章　氏
　　同　　川江 彰代　氏
　　鯖江市政策経営部総合政策課　田中 直美　氏
　　同　　藤田 陽子　氏
　　さばえＳＤＧｓ推進センター　関本 光浩　氏
　　同　　仲倉 由紀　氏

内容　これまでの探究活動の中間発表会を実施し，探究活動に関わっていただいてきた鯖江市およびさばえＳＤＧｓ推進センターの方々に助言をいただいた。詳しくは地域協働ニュース第１５号を参照。

１２月１６日（木）　「眼育さばえ」ビジョントレーニング体験

講師　ＮＰＯみるみえる　加藤 裕之　氏
　　ＮＰＯみるみえる　坂井 晴香　氏
　　インストラクター　橋詰 公人　氏

内容　鯖江市が取り組んでいる「眼育」の活動の一環で，眼の健康体操やビジョントレーニングの体験を鯖江高校で実施し，本校で「眼育」をテーマにしているグループの生徒が参加した。詳しくは地域協働ニュース第１７号を参照。

２月２５日（金）　小学校との交流会

対象　鯖江市惜陰小学校　３年生

内容　「環境」をテーマにしているグループが，惜陰小学校の３年生の児童に，紙芝居やクイズ，廃品を使ったおもちゃなどを通してＳＤＧｓのことを知ってもらう活動を実施した。本来は小学校に出向いて直接交流をする予定だったが，コロナ禍の影響で延期となり，対面での交流も不可能となり，オンラインでの実施となったが，生徒が探究してきたことが，小学生の子供たちに伝えることができた。詳しくは地域協働ニュース第２０号を参照。

後日，小学生からの感想文が送られてきて，発表した生徒たちの励みとなり，探究活動への更なる意欲となった。

（７２ページの写真を参照）

３月１７日（木）　「鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト」実践活動報告会

助言者　鯖江市総合政策課　　小竹 博之　氏
　　同　　藤田 陽子　氏
　　鯖江市市民活躍課　　五十嵐 浩司　氏
　　鯖江市農林政策課　　高橋 祐子　氏
　　鯖江市商工観光課　　酒井 智行　氏
　　さばえＳＤＧｓ推進センター　関本 光浩　氏
　　さばえＳＤＧｓ推進センター　仲倉 由紀　氏

内容　これまでの「鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト」の実践活動報告会を実施し，探究活動に関わっていただいてきた鯖江市およびＳＤＧｓ推進センターの方々に助言をいただいた。この活動も本来は２月に実施する予定だったが，コロナ禍の影響でこの日まで延期し，また助言者の方々とはオンラインで接続して実施した。詳しくは地域協働ニュース第２１号を参照。

その他　鯖江市，企業などへのインタビュー，企業訪問などを随時実施。

各教科での取組み

６月７日（月）　「人形浄瑠璃」体験授業（音楽）
講師　鯖江市人形浄瑠璃「近松座」　大橋 國利 氏　他
対象　３年 選択音楽受講生
内容　地域協働ニュース第４を参照

９月２７日（月）　「人形浄瑠璃」発表会（音楽）
講師　鯖江市人形浄瑠璃「近松座」　大橋 國利 氏　他
対象　３年 選択音楽受講生
内容　地域協働ニュース第１０参照

１１月１０日（水）　「エシカル消費」特別授業（英語）
講師　鯖江市役所　山田 眞美子　氏
　　同　　森川 瑞代　氏
対象　２年探究科
内容　地域協働ニュース第１４号を参照

１１月１７日（水）　「高分子」特別授業（化学）
講師　日華化学株式会社　松田 光夫　氏
対象　３年普通科（理系）
内容　地域協働ニュース第１３号を参照

１２月７日（火）　「放射線」特別授業（生物）
講師　日本原子力発電株式会社　佐藤　壌　氏
　　同　　池田 龍子　氏
対象　３年普通科（文系）
内容　地域協働ニュース第１６号を参照

２月２１日（月）　「消費者教育」出前授業（現代社会）
講師　鯖江市消費者センター　清水　優子　氏
鯖江市市民相談課　山田 眞美子　氏
対象　１年探究科
内容　地域協働ニュース第１９号を参照

コロナ禍の影響により，中止となった授業
・生分解性放射線実験樹脂を利用した授業（３年生物）
・福井銀行による資産形成や利率について（３年数学）

その他の活動

７月２１日（水）・２８日（水）ワーク・ライフ・バランス研修会
参加　希望者９名
講師　株式会社 For Smile　加藤 裕美　氏
内容　地域協働ニュース第８号を参照

７月１日（木）　教員研修会
講師　株式会社わどう　山岸 充　氏
内容　地域協働ニュース第６号を参照

校外活動への参加

８月１９日（木）「イクボスデー」トークセッション
主催　坂井市総務部総務課男女共同参画推進室
参加　本校生徒１名（オンライン）

１月３０日（日）マイプロジェクトアワード２０２１北陸サミット
主催　全国高校生マイプロジェクト実行委員会
参加　本校生徒５名（オンライン）

運営指導委員会

第１回運営指導委員会
日時　１１月２日（火）
１３：０５～１４：５５（５，６限目）　公開授業（２年探究科中間発表会）
１４：１０～１５：３０　運営指導委員会

第２回運営指導委員会
日時　３月２３日（水）
１５：００～１６：３０　運営指導委員会（オンライン）

議事録

令和３年度　地域との協働による高等学校教育改革推進事業
第１回　運営指導委員会　議事録

１　日時　　令和３年１１月２日（火）　　１５：０５　～　１６：１５

２　場所　　鯖江高等学校　視聴覚室

３　参加者

佐川 哲也	金沢大学地域創造学類長
田中 謙次	福井経済同友会 SDGs 委員会
田畑 雅人	鯖江市総務部長
澤　和広	鯖江市中学校長会長
齋藤 多久馬	自治医科大学名誉教授
大正 公丹子	福井県教育庁 高校教育課 参事
吉田 幸人	福井県教育庁 高校教育課 指導主事
浅井 裕規	校長
川畑 順一	教頭
渡辺 康仁	教務部長
酒井 龍弥	進路指導部長
山田 雅彦	探究研究部長
山田 繁	探究研究部 地域協働担当
千葉 章代	探究研究部 書記

４　内容

（１）　校長挨拶

文部科学省の研究指定を受けた，地域との協働による高等学校教育改革推進事業を令和元年度より始め，今年度は最終年度の３年目になる。目標を「地域への愛着とチャレンジ精神をもち，地域の未来を育てていく市民の育成」とし，地域との協働を柱に，持続可能な地域社会を形成していく高校生を育成する高校教育のカリキュラム開発を進めている。

令和元年６月に，鯖江市・鯖江商工会議所との三者連携協定を締結し，文化・教育・学術の振興と発展，人材育成，まちづくり，地域産業振興など，あらゆる分野で連携を図りながら地域活性化に向けて取り組んでいる。また今年２月には，仁愛大学と高大連携・高大接続に関する協定を締結した。探究活動の指導や授業力向上のための研究に連携して取り組んでいる。今日の中間発表会でも，仁愛大学の先生方には的確なご助言をいただいた。

丹南地区高等学校再編事業は２年目を迎える。今日ご参観いただいた「探究科」は昨年度新しくできた学科で，課題解決型の探究的な学びに重点をおき，課題研究による「主体的・対話的で深い学び」をさらに充実させたいと考えている。従来の「普通科」は，「スタンダードコース」に加え，専門コースである「スポーツ・健康福祉コース」，「IT・デザインコース」を新設した。専門教育に，今日のような探究活動を活かしていきたい。

総合的な探究の時間を，3年間で普通科では3単位，探究科では5単位という多くの時間を設定している。今月19日(金)には普通科の中間発表会を行う予定で，3月には探究科・普通科，双方の最終発表会を予定している。

運営指導委員の皆様には，様々な視点から忌憚のないご意見とご指導を賜りたい。そして本活動に対し，これまで以上のご理解とご支援をお願いする。

（2）　県教育委員会挨拶

運営指導委員の皆様にはご多忙の折ご参加いただき，厚く御礼申し上げる。また鯖江高校の教職員の皆様には日頃より熱心に本事業に取組みいただき，心から感謝する。

持続可能な地域社会を形成する市民の育成という構想のもと，令和元年度に文部科学省より指定を受け今年度3年目，最終年度となっている。今年度は研究の最終年度ということで，地元企業に強力にサポートいただき，SDGsのPR動画作成や大学での課題研究のワークショップ，また地域企業との交流会など様々な交流を行い，地域との連携による活動の統括が進められている。

来年1月には成果発表の報告ということで全国サミットが控えている。教育委員会として，鯖江高校の3年間の成果が全国へ発信されることに，大いに期待している。

運営指導委員の皆様には研究開発の総仕上げに向けて，ご指導・ご助言をいただきたい。今日の生徒たちの活動や事業報告に，忌憚のないご意見をいただきたい。

鯖江高校においては，今後来年・再来年と研究が益々充実したものとなるよう祈念している。

（3）概要報告

・今年度のこれまでの取組みについて

・今後の予定について

別紙（スライド）参照

（4）運営指導委員からの指導・助言

〈佐川氏〉

授業を参観させていただき，大変に工夫をこらしていると感じた。生徒にとっては地域への愛着，学校にとっては地域との協働を進める中で，とりわけコロナ禍ということでご苦労があったと思うが，関係組織や団体との連携・協働の部分で，着実にその数が増えていて素晴らしい。

「地域協働ニュース」を，毎回関心をもって拝読している。取組みを続けていることが鯖江市内・県の教育委員も含めてかなり広がっていると想像しているが，更に読んでもらい，読んでもらったことに対する反響が返ってくると良い。今後どのようにまとめて報告していくか課題になる。着実に活動を続ける中で，授業を受けた生徒と地域とのつながり，企業との連携が広がっていくと素晴らしい。また学校と企業とのつながりが今後も広がり，継続していくと良い。

今日の発表会については，生徒がルーブリックの項目内容をしっかり把握し，項目を目標にイメージに沿うかたちで発表をした結果，質の高い発表が実現できていると感じた。ま

た，探究とは何か？とのつながりが非常に明確で，生徒が理解して取り組んでいると感じた。1 年生の時から丁寧に指導を受けているため，比較的容易に取り組めているのではないかと思う。

しかしルーブリックにもう少し工夫があると良いと感じた。例えば，評価基準を複数ではなく 2 つくらいに絞ったり，生徒自身に評価基準を分けさせてみるなど，生徒との関わりの中で工夫をすると良いと思う。評価の観点にもう一つ「質問」という項目を付け足すと良い。他者の取組みを応援するために，適切な質問をすることが一つの技術として重要で，項目に増やすことで質の高い質問がでてくると思う。

1 年生から取り組んだ成果が 2 年生でどのように表れているか，学校として生徒の成長をどのようにみているか，大変に関心がある。1 年生の時からの繋がった単元であることは理解したが，生徒一人一人の課題が年度毎に変わるのか，3 年間つながっているのか興味深い。3 年間同じ課題を探究し続け追いかけ続けるということは，地域とのつながりの中でとても意味があり面白いと思う。

この課題研究を発表する場があると良い。学習として単にやったというだけではなく，発表することによって，地域に対する高校生としての責任，課題に取り組んだ責任を果たすことになるのではないかと思う。可能であれば，企業から発表に対する評価をもらえると良い。場合によっては生徒の提案が企業で採用されることもあり得る，またそれがきっかけで地元の企業に就職するなど，発表が企業側からのお墨付きのようなものになると良い。

学校と地域が，子どもをいかに地域とつなごうかと努力する中で，様々な展開ができていることに大変評価をしている。あと半年，どのように仕上げるか大変だと思うが応援している。

〈田中氏〉

課題を見付けるテクニックがうまくなっていると感じた。しかし，自分と課題とのつながりが見えてこない生徒もあった。

課題を解決するための情報処理能力には 3 つのレベルがある。

【レベル１】自分ごとと考える，そのため自己中心になりやすい。例えば，仕事をして社会に貢献するより，給料をたくさんもらいたいと考える。一番身近な自分のところだけの情報を処理する能力がレベル１。

【レベル２】自分と周り，地域を考える。今日の仁愛大学の先生の言葉に，自分のためにならない奉仕活動・労働は参加しなくて良いと考えるよね？とあったが，それは違うと思う。損得で考えると仕事は成り立たない。周りでどういう課題が起きているかを認識して，自分たちで解決できるか考える。自分と周りの情報処理能力がレベル２。

【レベル３】自分と世界をつなぐ。社会の動きが理解できると，自分たちで社会をつくろうとする。社会で何が起きているかを理解し，アクションを起こす。自分と世界の情報処理能力がレベル３。

自分と周りとの関わりから課題を見出すことが大切である。3 年間一貫したテーマは，周りとの関わりを強化すると思う。自分ごとだけではなく，自分と地域社会との関係性を考えられる人材がこれからの経済を支えていくと思う。

〈田畑氏〉

授業内容がとても進化していることに驚いた。テーマが生徒によって違うなか，地域などから方向性に対してなどの助言がしっかりされていて，強力なサポートがあり素晴らしい。鯖江市役所も連携協定を結ばせてもらっているなか，鯖江市として何が支援できるか，今後またしっかり連携を深めていく必要があると考えている。

〈澤氏〉

テーマにも生徒たちの柔らかい発想を感じ，なるほどと感心した。

鯖江のバスはどうなるのか？など，地域住民にとっての素朴な疑問・差し迫った課題にも目を向けてくれていて有り難い。

西出先生の授業“エッグドロップ”など，とても盛り上がったと思うが，そのような意図的な仕掛けが散りばめられていることが，生徒たちの柔らかな発想を引き出していると感じた。そして協力してくれている方たちに，生徒たちが安心感をもって関わっていてとても良いと思う。

地域との連携がとても素晴らしく，地域住民としても有り難いと感じる。

〈齋藤氏〉

発表することを相手に理解してもらうため，分かりやすい大きな声で発表するべきである。スライドも，字の色や字体・大きさを，相手に分かりやすいものにするべきである。発表する姿勢・発表の仕方を身に付けてもらいたい。

小さい自然現象に対する疑問の心を，自分の心で考えてもらいたい。自分で考えることをしなければ世界に通用しない。誠の心で何が正しいか，どれが本当に正しいかを議論しなければならない。

質問者は大きな声ではっきりと，正しく質問をしなければならない。手を挙げて自主的に質問をするべきである。的確な質問をし，相手をやりこめるのではなく問題点をえぐりだすことが重要である。

先日ラジオ番組で，就学前の女の子が「昆虫の足が 6 本あるのはなぜですか？」と，世界中の誰も答えられないような大問題を質問していた。博物館の関係者の回答が，「ムカデに足が何本あるか知っているか？」と，自分の知識に置き換えていてとても残念だった。不思議だと感じる気持ち，素朴な疑問が極めて大事である。純粋な心を育ててもらいたい。

〈大正氏〉

いつも学校に協力していただき大変に感謝している。

昨年度鯖江高校探究科が新設され，県としてもカリキュラムやどういった探究活動を進めるか，どのような生徒を育てるか，大変関心をもち大事なところと考えている。

1 年生の時に課題研究のテーマを設定する授業があり，生徒自身が問いを立て研究を進め，今日はその中間発表ということで，地域への貢献意識・地域への愛着が大前提だったと思うが，発表を聞いていて，問題を自分ごとにしていない印象があった。探究手法は身に付いているが、テーマに対して自分がどのような姿勢でいるのかが見えてこなかった。

周りへの意識が弱いと感じる。意識が変わると，テーマに対する深み・考え方が変わり，質問が変わり，結果も変わってくると思う。

折角これだけ地域の方と密接に関わっているのなら，地域の方にインタビューするなどして，地域の一員としてテーマを設定などすると良いと思う。

全体的には大変な成長を感じる。研究は今年度で終わりになるが，今後後輩たちにも伝えていけるようご協力いただきたい。

〈佐川氏〉

資料の中の，育成すべき生徒像「持続可能な地域社会の形成に向け，自ら考え行動する生徒」，これは究極の目標だと思う。3 年生はこの事業が始まってからの 3 年目ということで是非 3 年生の彼らに“君たちは持続可能な地域社会の形成者になれるだろうか？”という問いをぶつけてもらいたい。地域社会の形成者になりたいという答えが返ってきたら，事業として救われる。

3 年目ということで，総合評価をする仕掛けをつくると良いと思った。卒業までに，自分達が身に付けたい知識・能力が，どのくらいこの活動を通じて身に付いたか自己評価をすると良い。

〈鯖江高校〉

三菱 UFJ の高校魅力化評価システムで 3 年間の追跡調査を行い，見える化を図っている。生徒の資質・能力が 1 年生の入学時から 3 年間でどのように変容したかをしっかりと把握し今後につなげていきたい。

次回，第 2 回運営指導委員会を令和 4 年 2 月 18 日(金)に予定している。

概況報告　スライド

令和３年度

地域との協働による
高等学校教育推進事業

第１回運営指導委員会

今年度のこれまでの取組み

４月　１年探究科　「エッグドロップにチャレンジ
ー課題研究のすすめ方についてー」
仁愛大学　西出教授

５月　２年探究科　「実験方法と調査方法を学ぼう」
仁愛大学　西出教授　織田准教授

６月　３年音楽選択者　人形浄瑠璃体験
鯖江人形浄瑠璃「近松座」

６月　２年生全員　環境活動家　露木志奈氏講演会

７月　教員研修会　「鯖江の今と可能性」
株式会社わどう 代表取締役 山岸充氏
１年探究科　「鯖江市の企業との交流会」
@鯖江商工会議所
鯖江商工会議所、アイテック（株）、
（株）鯖江村田製作所、タイヨー電子（株）、
ふくい眼鏡工業（株）、ヨシダ工業（株）
２・３年生９名　「ワークライフバランス研修会」
(株)For Smile 加藤裕美氏、鯖江市役所

７月　２年生探究科　高校生課題研究ワークショップ
@仁愛大学（武生高校、武生東高校と合同）

９月　３年音楽選択者　人形浄瑠璃発表会
鯖江人形浄瑠璃「近松座」

10月　２年生全員　「鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト」
２年生５名　鯖江市＋ＳＤＧｓ宣伝動画撮影

11月　２年生探究科　課題研究中間発表会

今年度の予定

１１月　２年生普通科　ＳＤＧｓ探究プロジェクト中間発表会

１２月　１年生探究科　「２０３０　ＳＤＧｓカードゲーム」
エコネットさばえ　楳原秀典氏

３月　１・２年生探究科　課題研究発表会
２年生普通科　ＳＤＧｓ探究プロジェクト発表会

今年度のこれまでの取組みについて

・昨年度の課題①「地域と連携した実践的な探究学習」
→探究科・普通科ともに地域の様々な機関と連携した探究活動を実施
→イベント的な連携でなく、恒常的な連携に

・昨年度の課題②「他校種との交流や地域への貢献活動の実施」
→さばえＳＤＧｓ推進センターと丹南ケーブルテレビと連携したＰＲ動画作成など

令和３年度　地域との協働による高等学校教育改革推進事業
第２回　運営指導委員会　議事録

１　日時　　令和４年３月２３日（火）　　１５：００　～　１６：００

２　場所　　Ｚｏｏｍによるオンライン会議（本校教員は視聴覚室）

３　参加者

（欠）	佐川 哲也	金沢大学地域創造学類長
	田中 謙次	福井経済同友会 SDGs 委員会
	田畑 雅人	鯖江市総務部長
（欠）	澤 和広	鯖江市中学校長会長
	齋藤 多久馬	自治医科大学名誉教授
	大正 公丹子	福井県教育庁 高校教育課 参事
	吉田 幸人	福井県教育庁 高校教育課 指導主事
	浅井 裕規	校長
（欠）	川畑 順一	教頭
	渡辺 康仁	教務部長
	酒井 龍弥	進路指導部長
	山田 雅彦	探究研究部長
	山田 繁	探究研究部 地域協働担当
	千葉 章代	探究研究部 書記

４　内容

（１）　校長挨拶

本来ならば，この会議は先月に行われる予定でしたが，コロナウイルス感染拡大の影響により，本日に延期したことをお詫びします。また生徒たちの授業の様子や発表の様子を見ていただけなく，会議だけになってしまい，申し訳ありません。

運営指導委員の皆様にはご出席いただき，ありがとうございます。そして日頃よりご指導いただき，ありがとうございます。

地域との協働による高等学校教育改革推進事業ですが，本校は文部科学省の研究指定を受けて令和元年度から３年間取り組んできて，今年度最終年度を終えようとしています。県の教育委員会のご指導をいただきながら，鯖江市，鯖江商工会議所との三者連携協定，および仁愛大学との高大連携・高大接続に関する協定，この２つを活かして取り組んできました。コロナ禍において，昨年度は計画されたすべての事業を実施することは困難でしたが，今年度は実施方法を工夫しながら実施してきました。

本校は丹南地区の高等学校再編事業によって，一昨年度に始まり２年目を終え，来年度はすべての学科が新しい学科・コース・専攻となります。探究科においては，新しい学科ということで課題解決型の探究的な学びに重きをおいて，そして，課題研究による主体的・対話的で深い学びを，更に充実させている。また，普通科においては従来の普通科であるスタン

ダードコース，そして新しいコースであるスポーツ・健康福祉コース，ＩＴデザインコースでも，本事業で得られた地域とのつながりを専門教育に活かしています。

今後の取組みについて，事業としての３年間は終了するが，鯖江市・鯖江商工会議所，そして仁愛大学との連携をこれまで以上に密にし，地域協働の活動に取り組んでいきます。そして，活動の成果を県内外に発信していくことを使命と考えています。

本日の委員会では，本事業の本年後半の取組み，本事業の３年間の取組みを報告し，本事業終了後の取組みも説明します。様々な視点から忌憚のないご意見とご指導をお願いいたします。

運営指導委員と県教育委員会の３年間のご指導に感謝します。本活動に関して，これまでと同様のご理解とご支援をお願いいたします。

（２）　県教育委員会挨拶

運営指導委員の皆様にはご多忙の中，運営指導委員会にご出席いただき，厚くお礼を申し上げます。また，鯖江高校の教職員の皆様には，日頃から本事業に積極的に取り組んでいただき，感謝申し上げます。

鯖江高校では鯖江型高校教育「オールＳＡＢＡＥ」を構築し，持続可能な地域社会を形成する市民の育成というテーマのもと，令和元年度より３年間研究開発に取り組んでいただきました。そのあいだ，鯖江市・鯖江商工会議所との連携協定，また仁愛大学との連携協定を結ぶなど，地域との協働体制をしっかりと構築してきました。その上で生徒の探究力を育て，持続可能な地域社会を形成する人材育成につながる授業，またカリキュラムを構築し実践をしていただいてきた。まさに地域人材育成の芯となるような「オールＳＡＢＡＥ」の取組みや成果を残すことができたのではないかと思います。

運営指導委員の皆様には，これまでの３年間の実践発表や事業報告を踏まえて，生徒の学び，また研究についてご意見・ご助言をいただきたく存じます。どうか忌憚のないお話をお願いします。

また鯖江高校におかれましては，本日の運営指導委員会のご意見を参考にして，この後の研究終了後も地域を支える人材育成を推進していくことを願っています。

（３）概要報告

・今年度後半の取組みについて
・３年間の取組みについて
・本事業の終了後の予定について

別紙（スライド）参照

質疑・応答

〈田中氏〉

すごく興味深い結果だったので，じっくり見ていました。学校としての考察として，表現力・協調力・行動力があるが，「学校以外のいろんな人に話を聞く」「自主的な調べ物や取材をする」のポイントがすごく上がっている反面，「自分の考えを相手に伝えることができる」のポイントが下がっている点について，クロス評価など，先生方で感じていることはありますか。

〈山田雅彦〉

行動力に関しては，興味を持ちだしたら自分で行動するようになりました。表現することは別次元のことなのかなと感じています。プレゼンテーションをさせても棒読みになっていたりするなど，もう一歩，表現する力を育てていかなければならないと感じています。

〈田中氏〉

これは自分の達成度を理解し始めたからポイントが下がってきたという理解でよろしいですか。

〈山田雅彦〉

よく言えばそう行くことかもしれないが，まだ人前に出て話をするということが不十分と感じています。今回は教室内での発表だったので，これをもっと広いところで，本来は体育館で一斉にパネル展示で実施する予定だったが，それができなかったのが残念でした。

〈山田繁〉

今の件で，補足します。行動力の面に関しては，例えば校外の発表活動などに参加したいと希望する生徒は，数を追っているわけではないが，３年間で少しずつ増えてきている実感があります。ただし，そのような場に出ようとしたとき，自分の考えをはっきり伝えるというところまで，こちらが育成できていないというのが現実だと思うので，まずは行動するというところまではもっていけたので，これをさらに表現力を磨いていくかということを，こちらが考えていかなければいけないし，学校としてもそのような場をもっと提供し，生徒がさらに発表する場を作っていく。先ほど市民に成果を還元すると言ったが，できれば来年度，再来年度は鯖江市役所など，普通の市民の方を相手に発表する場を設定し，より表現力の部分も磨いていけたらと考えています。後は，一般の方を相手に質疑・応答ができるかどうか，そのような能力を磨いていけるようなカリキュラムを作っていく必要があるのかなと感じています。

（４）運営指導委員からの指導・助言

〈田中氏〉

ＳＤＧｓに関するカリキュラムが非常に多くなっていて，素晴らしいと思いました。他校や県外の学校や大学では，ぼちぼちアクションプランに移しているところも増えていると最近感じています。ＳＤＧｓを研究するというステージは，鯖江高校としてはもういいのではないかと思います。実際にＳＤＧｓの行動をしていくというところ，自分たちの力で社会がどう変わっていくかというところを探究していってほしい。大人がやっている社会を高校生がやってどうなるかという雰囲気になりがちであるが，そうではなくて，高校生だからこそできる，鯖江だからできるという行動を見つけ出してもらいたいと思いました。昨年，露木志奈さんが講演されたときに「行動するには大人になるまで待たなくていい」という言葉を残しています。露木さんは全国の小中高校を渡り歩いているが，彼女のＳＮＳをみると，小学校ですら実際にアクションプランを起こしているという事例が結構あります。なので，大人が考えることを無理して考えるのではなく，高校生だからこそというところに着目すると

いいのかなと思います。それが学校での取組み，クラスの取組み，小学校区の取組み，部活動の取組みなど単位は何でもよいので，小さい団体でもいいので，みんなで取り組めると更に鯖江型を発展させることができるのではないかと思いました。

〈鯖江高校　山田繁〉

今のことについて，ちょうど来年度からＳＤＧｓ推進センターの方が中心となって「ＳＤＧｓ部」というものが立ち上がる予定で，本校から５名の生徒が参加を希望しており，何かそういうところで行動したいという生徒が出てきているので，地域と連携して，もっともっと活動ができるようにしていきたいと考えています。

〈田畑氏〉

鯖江市の今後の取り組み方についてお話をすると，文部科学省の３カ年の事業が終了して，今後の連携協定を踏まえて，探究活動をいかにしっかりと継続していくかが課題だと思っています。鯖江市としては来年度以降も「めがねのまち鯖江 探究活動事業」という単独の事業として，鯖江高校と連携しながらいくつかの事業を展開し，連携の継続，探究活動の継続をしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

成果の地域への還元として，発表の場の創出を，鯖江市としても何らかの形で支援していけるように，鯖江高校と協調しながらできることをしていきたいと考えています。

行動力の数値が上がっていることについて，フィールドワークの重要性を生徒も理解しているようで，生徒の能力が発揮できる場を，市としても今後も提供できるように，これから進めていきたいと考えています。

〈齋藤氏〉

地域との探究の中で，皆さんが大変努力していただいていることを，心から感謝いたします。

少し話は飛ぶかもしれませんが，現在，ウクライナで戦争が起こって１カ月になろうとしていますが，あのウクライナ人の姿勢を見て，世界中がショックを受けたというか，今まで考えていなかった姿勢を彼らが示したということが，これからの社会に大きな影響を与えるのではないかと思っています。その地域愛，郷土愛という強烈な愛情をウクライナの人たちが持っているということ，これは鯖江，福井，日本人が持っているより強いという印象を受けて，ある意味でショックを受けたのではないかと思います。そして，あの困難の中で自分の家庭を大事にして，女の人や子供を避難させながら国を守るという，この強烈な姿勢というものは戦後の日本の中では，少し弱かったのでなないかという気がするのですが，基本の基本をもう一回思い出させてもらったような印象を受けました。ですから，このウクライナという国のことを細かくは知らないが，外国人の報道の声を聴いていると，文化豊かな美しい場所だったそうで，そういったものをみんなが大事にしようとしている。日本人のコメンテーターの中には，なぜ平和のために早く降伏して平和にしないかという印象の発言をする人がいるのを感じているが，あの世界の中で，つまり我々が学問をする，高校から大学さらに成人していく中で一番大事なのは真理を求めることであって，真理というものは絶対の真理があると信じて努力するものです。実際はたくさんの意見があって，すぐにその真理がつかめるものではないけれども，そこで議論を戦わせて，絶対の真理というものがあると思う

から努力をする，人間の真理の姿というのは正義であると思うから，ウクライナ戦争のことを考えても，平和ではないということは事実だが，どちらが悪いのだという議論は，日本ではあまりはっきりしない，しかし世界ではかなりそこのところを明確にしようとしています。ですから私が言いたいのは，地域を大事にするということは，広い世界の中での位置づけによって，地域というものの価値が定着し，評価されるのであって，そういう意味で，地元の企業との連携ももちろん大事ですし，ありがたいことですが，その企業の価値の位置づけというものを世界の中で判断することができれば，その立場は強固なものになる，そういう側面をもっているということを，ウクライナから教えてもらったというつもりはありませんが，もう一回思い直してみるということを感じました。それは教育の中でも基本の基本ということ，自分で真理を探す，自分で物事を考えるということは，言うは易くして容易なことではありません。その努力をする姿勢を心の中でしっかり持てる人を育ててもらえればと思っています。たまたまウクライナ戦争から１カ月になるそういう時なので，そういう地域というもの，国家というものを考えながらそういうことを思いました。皆様方のご努力で鯖江高校の子どもたちが活躍することを心から念願し，また皆様方の地域の方々の援助によってそれらが達成することができれば，大変ありがたいことですので，どうぞよろしくお願いいたします。

〈大正氏〉

この事業が始まって３年がたちますが，おそらくこの事業をやっている途中は，ほぼコロナ禍の状況で，学校で取り組みたいこと，外部の方と協力して行いたい授業がほとんど思うようにできなかったのではないかと思います。そのような中，オンラインなどを工夫して何とか生徒のために，いい形で研究を進めていただいたと思い，心から感謝をしています。
学校にとっては，学校が外部の人と協力をして授業をする，しかも生徒全員で授業をするということは，実は非常にハードルが高いことだと思います。ですが，そういったことがありながら地域と協力して生徒に学ばせる機会をたくさん作っていただいて，本当に良かったのではないかと思っています。今後の課題として，成果の地域への還元が大事だと考えています。地域の人に学んだことを聞いていただく，あるいは学んだことを一緒に形にする活動ができると，生徒たちが地域の人たちと対等に話ができるし，それによって怒られもするが，ほめられもすると思います。それによって，認められ感が高まり，自己有用感が増すのではないかと思われます。そうなると，また更に地域の人たちと研究をしようというような，いい循環ができるので，これこそがまさに地域協働事業の本来目指すいい形なのではないかと思いますので，またこれから取り組んでいただきたいと思います。

今，社会に開かれた教育課程が文部科学省で話が出ていますが，簡単に社会に開かれた教育課程といっても，実際には非常に難しいですが，鯖江高校はこの３年間でそのスタートラインに立っていると思いますので，研究は一旦終わるが，今後も継続してどんどん進めていってほしいと思います。地域の方が全員先生，地域から学ぶということが学習活動として当たり前になっていくということを願っています。３年間どうもありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

〈鯖江高校　山田繁〉

今ほど，様々なご意見をいただきましたことを，考えるだけではなく，具体的にいかに行動に移すかということが大事かということを再認識しました。鯖江市側からいくつか実際に提案をしてほしいということもうかがっているので，現実として実現しそうなプランなので，どんどんこちらからもそういうことを増やしていきながら，今後も地域と協働して，鯖江高校の教育をより良いものにしていきたいと考えていますので，これからも継続してご指導・ご助言をよろしくお願いいたします。

概況報告スライド

令和３年度

地域との協働による
高等学校教育推進事業
第２回運営指導委員会

1

今年度後半の取組みについて(1)

11月　２年探究科　英語特別授業「エシカル消費」
鯖江市総務部
３年普通科　化学特別授業「高分子は身近な素材」
日華化学株式会社
12月　３年普通科　生物特別授業「放射線とは？」
日本原子力発電株式会社
２年普通科　「ビジョントレーニング体験」
ＮＰＯ法人「みるみえる」
１年探究科　「ＳＤＧｓカードゲーム体験」
ＮＰＯ法人「エコネットさばえ」

2

今年度後半の取組みについて(2)

２月　１年探究科　消費者教育出前講座
鯖江市消費生活センター・鯖江市市民相談課
２年普通科　ＳＤＧｓ探究プロジェクト
惜陰小学校との交流会（オンライン）
３月　２年普通科　ＳＤＧｓ探究プロジェクト実践報告会
鯖江市役所・さばえＳＤＧｓ推進センター（オンライン）
１年探究科　探究学習特別講座
（株）田中地質コンサルタント

3

本事業の目的(1)

①市民との協働による学びを促進し、持続可能な地域社会を形成する市民を育成する。

②市民との協働による学びにより、生徒の探究力を育成する。

③市民との協働による学びの成果を広く発信し、地域の中核としての学校を目指す。

4

本事業の目的(2)

どんな生徒を育てたいか？
①地域への愛着と貢献意識を持ち、地域の未来を育てる市民
②地域の伝統や文化を継承し、新たなことへのチャレンジ精神を持つ市民
③多様な価値観を共有し、あらゆる人々を包摂する社会を形成する市民
④持続可能な地域社会の形成に向け、自ら考え行動する市民
→鯖江型高校教育「オールＳＡＢＡＥ」の形成

5

本事業の成果(1)

①連携協定の締結

鯖江高校・鯖江商工会議所・鯖江市の相互連携協定
令和元年６月１３日

仁愛大学との高大連携・高大接続に関する協定
令和３年２月２６日

本事業の成果(2)

②探究学習の深化

○探究科・普通科のカリキュラム開発

○各種機関・企業・ＮＰＯ法人との連携

○探究学習の地域への発表

7

本事業の成果(3)

③普通科目での地域との連携

8

本事業の成果(4)

④生徒の能力の向上

	アンケート項目	全校生徒の割合の推移(%)				2年生の割合(%)	
		2019年	2020年	2021年	前年度との差	2021年度	1年次との差
表現力	自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	71.8	68.8	64.6	-4.2	64.8	0.35
	友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	59.8	57.5	58.4	0.9	59.5	6.15
協調力	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	89.7	90.2	93.1	2.9	91.1	4.16
	相手の意見を丁寧に聞くことができる	91.1	90.2	90.2	0	88.7	0.13
	共同作業だと自分の力が発揮できる	72.6	72.4	67.7	-4.7	66.4	-2.77

9

本事業の成果(5)

④生徒の能力の向上

	アンケート項目	全校生徒の割合の推移(%)				2年生の割合(%)	
		2019年	2020年	2021年	前年度との差	2021年度	1年次との差
行動力	目標を設定し，確実に行動することができる	65.1	63.0	65.3	2.3	66.0	8.68
	自分で計画を立てて行動することができる	69.2	64.2	64.1	-0.1	63.2	6.24
	自主的に調べものや取材を行う	60.4	58.3	61.2	2.9	64.0	14.96
	学校以外のいろいろな人に話を聞きに行く	29.2	30.9	34.7	3.8	40.9	13.22

10

今後の課題

①２つの連携協定の深化

点から線、面へ

②成果の地域への還元

例：ボランティアや地域イベントへの参加増

学習成果の市民への発表

11